

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関には法人理念、事務所とフロアには事業所の運営方針を掲示し日々の支援に活かせるように共有している。毎月の職員会議の際には事業所の運営方針を読み上げて確認している。	法人全体の理念をもとに事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう玄関・共有スペースに理念を掲示し毎年度の事業計画でも具体的な落とし込みを行っているほか、職員個人目標の設定・評価も行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会のクリーン活動に参加したり施設の広報誌を発行して町内に回覧していただいている。また、近隣の方々には行事で作ったおはぎやちまきなどをおすそ分けするなど永年いいお付き合いをしている。	地域に向けた広報誌を発行し、地域に回覧しています。また、地域の清掃活動にも参加したり、区の文化祭へご利用者の作品を出展したり、ホームで作ったちまきを近所の方にもお配りする等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の振興会が主催する、さんわ憩いの場「ひなた」の運営委員を管理者が務め高齢者、障がい者を含めた社会交流による健康増進と不安、孤独感解消を図る運営に参加し交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隣接する小規模多機能型居宅介護支援事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。推進委員は町内会長、民生委員、地域包括支援センター、入居者のご家族代表、駐在所の方々となっております。事業所の状況報告を行い皆様からのご意見を真摯に受け止め、サービス向上に努めています。コロナ禍になり参集での開催は困難になっており書面での報告が多いがご意見、ご感想を返信でいただいている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面開催が多くなっていますが、運営推進会議は定期的に隣接する小規模多機能型居宅介護事業所とも合同で開催し、町内会長、民生委員、ご利用者代表、ご家族代表、地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、ご意見やアドバイスをいただいている。また、地域ケア会議にも参加しており地域の福祉関係者との関わりもある。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただきアドバイスを頂いているほか、地域ケア会議にも参加し、地域の福祉関係者とも交流の機会を持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には「身体拘束等の適正化のための指針」を配布し年2回の研修に参加してもらい身体拘束について理解を深めて意識を持って取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとしている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしています。また、職員会議にて定期的に身体拘束について検討の機会を設けたり、法人にて年に2度は定期的に身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束研修と同じく法人内研修に参加し虐待防止への認識、理解を深めて虐待防止に努めている。	職員同士で日常の言葉遣いで気になる点があれば確認しています。また、身体拘束研修と同じく、法人にて定期的に虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外での研修に参加し、グループホーム職員としての対応方法や制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書に沿って説明をしている。ご不明な点等についてはその都度伺い説明してご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から受診時などでお会いする際にはご意見やご要望を伺っている。また、面会が困難な時には電話連絡を行いご意見を伺いケアプランに反映させている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡、サービス担当者会議の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の際には職員からの意見、要望を聞く機会を設けている。個人的には年に2回の個別面談時にも意見をもらい運営に反映できるように努めている。	年2回は個人面談を行い、人事異動の要望も確認する等、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人内で人事考課制度を導入しており前期、後期と分けて個人目標を達成するための方法やプロセスに沿って実施し成果を評価して、上司も評価しフィードバックを行う方式を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルアップに向けて資格取得に関する情報提供や勉強会の開催を行い参加しやすいように勤務を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍であり同業者との交流する機会は少ないが地域包括支援センターが主催する地域ケア会議では同区内の福祉関係者が参加しており交流の場となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の状態確認の際にはご自宅の場合は生活環境や家族との関係、施設(D.S)での状態確認は現在の困り事や不安に思う事などさり気なく声かけして不信感を持たないように安心して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今までの苦労や今に至るまでの経緯に耳を傾けて、これから入居にあたり生活に求める事を理解して、施設での生活で何ができるかを一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや要望を確認し、可能な限り柔軟な対応で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある不安や嬉しく思う事などを知ること努め、お互いに協働しながら穏やかな生活が送れる環境作りや声掛けをしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌は年に6回発行している。近況報告は年に2回送付している。日頃の様子は消耗品依頼する時に電話連絡を行い、現在はコロナ禍で家族との外出ができないが受診時はご家族に支援をいただいている。	事業所広報を送付やご利用者毎に日頃の生活の様子をまとめた近況報告もお送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で対面式の面会ができないが窓越し面会を行い関わりを継続している。また、入居前からの行きつけの美容室から訪問理美容サービス券を利用し訪問していただき散髪していただいている方もいる。	今年度は新型コロナウイルスの影響で制限もありますが、親族の方に面会に来ていただいたり、知人からお手紙を頂く方もいるなど、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同区内の入居者は地域の話ができるように配席などを配慮している。また、入居者同士の関係性を見ながら必要時には職員が仲介役となり関係性を調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば柔軟に対応し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日々の生活の中で本人の表情や会話から思いを把握し、情報の共有を行いケアプランに反映するようにしている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状態確認の際に本人や家族または施設職員、居宅のケアマネからこれまでの生活歴や暮らし方等を聞き情報収集に努めている。入居してからも引き続き会話から情報を聞いている。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や暮らし方を確認しています。6ヶ月に1度はアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活の中でいつもと違う事今まで出来たのにできなくなった、こんな事もできるなど都度状態変化に気付き情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族には施設で生活の中での意向確認は行っている。現在はコロナ禍にあり家族には電話連絡を行い状態報告を行い意向確認している。モニタリングは居室担当が月1回行い、個人記録からも情報を確認している。	サービス担当者会議ではご利用者、ご家族の意向を確認し、ケアプランの検討を行っています。居室担当が毎月モニタリングを行い、必要に応じて介護計画を見直しています。	調査時点で介護計画書の説明・同意が期日より遅れている方もいましたので、スケジュール管理を行い今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を個人記録に記載して職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズがあれば可能な限り対応している。緊急時はもちろん家族の都合により受診同行なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域のボランティアとの交流できないが三和区の図書館が近くにあり利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が希望する医院へ基本的に家族が受診してもらっている。必要に応じて職員が同行したり本人の状態を記入した受診票を持参してもらい医師への情報提供を行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行したり、ご利用者の状態を記載した文書をご家族にお渡しするなどし、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に1度の勤務のため詳細に情報報告し共有している。急変時は迅速に連絡できる体制になっており指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に情報提供を行っている。現在はコロナ禍にあり退院カンファレンス等は行うことができない為病棟の看護師との連絡を小まめに行い回復状況を把握している。退院時は迎えに行き看護師から直接話しを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側の方針を契約時に説明している。本人、家族の意向確認をしている。主治医による往診が可能なのか確認し終末期のあり方を家族と介護職、看護師と連携をとり安心して支援に取り組めるようにしている。	契約段階で管理者は医療的な支援が必要なければ看取りまで支援するというホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師、栄養士とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在はコロナ禍にあり普通救命講習は行っていないが、少人数ずつでも講習を受けられるように検討している。同一敷地の特養で講習の機会があれば参加する。	今年度は新型コロナウイルスの影響で行っていませんが、職員には普通救命講習を受けてもらっており、法人でも緊急時の対応について研修を行う等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している特養や小規模多機能型居宅介護との協力体制にて日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。今回はパート職員の参加も検討している。	災害時を想定した非常食を準備しており、隣接する特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護事業所と合同での日中や夜間を想定した避難訓練や緊急駆けつけ訓練も行なっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中での言葉かけは馴れ合いにならないように、本人の人格を尊重した支援が行えるように職員会議等で話し合っている。広報誌等での写真の掲載についても契約時に同意書を得ている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報やホームページへの写真の掲載についても契約時にすべてのご利用者に同意を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人に決定してもらえるように声かけを行っている。2択のように簡単に答えられるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく本人のペースに合わせてやりたい事を伺い生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の着替えの時は本人の好みの洋服を選んでいただくようになっている。自身で判断できない方には2択にして選んでもらうようになっている。整容時もブラシをかけてもらったり、受診の時は口紅を塗って行かれる方もいるので支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理などできる事を職員と一緒にやっている。施設の畑で作った野菜を収穫して食材として提供して季節感や自身で畑をやっていた頃を懐かしんでいただいています。個別に禁止食材や好き嫌いなどにも代替えで対応している。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付け等も行ってもらっています。また、事業所の畑で野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者の誕生日には希望のメニューを確認し提供したり、おやつ作りも行なうなど、食事が楽しみになるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成は職員が行い、特養の管理栄養士に確認してもらい指導してもらっている。この時期は特に水分補給が課題になるがゼリーを作り提供している。個別でも好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや介助を行っている。自立している方は時々見守り確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方もいるが排便の確認もあり全員に排泄チェック表をつけている。個々の排泄のリズムの把握に務めている。さり気ない誘導や個人合った支援を行っている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも4箇所あり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけスムーズな排便になるように水分補給の促しにゼリーや牛乳やヨーグルトを提供している。食物繊維の多いキノコ類なども食材に取り入れている。可能な限り体操などで身体を動かしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望に添った時間帯で入浴していただいている。同性介助を希望している方には対応している。入浴を拒否される方には無理意地しないで日にちを変更したり誘導する職員を変更するなど対応している。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がる方にはタイミングを変えたり、ご家族にも協力して頂いたり、同性介助の要望にも対応するなど、ご利用者に入浴を楽しんで頂けるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況や午睡の把握して日中は活動を促すなど夜間帯はゆっくり休んでいただくように働きかけている。休むときはパジャマへの更衣を行い室温管理など快適な環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のお薬カードを受診の度に更新して個人記録にファイルして確認できるようにしている。また、臨時薬や薬の変更等は情報の共有を行い申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事、今までやってきた事などを見つかけたり継続できるように役割を持ってやっていただいている。嗜好についても甘い物が好きな方や冷たい飲み物やアルコールが好きな方には対応している。(ノンアルコールで)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍にあり外出の自粛を行っており外出支援は困難になっている。それでも季節に合わせてお花見や紫陽花見学に少人数でドライブを行っている。	調査時点ではコロナウイルス感染予防のために外出は自粛されていますが、季節に合わせたお花見や紫陽花見学などの外出を実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では預かり金を行っておらず現金を使うことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話使用の希望があれば利用していただいている。コロナ禍であり面会も困難なため手紙や年賀状、誕生日にお花や小包が届いたりする場合は本人に直接手渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは吹き抜けで天井が高く明るく開放的な空間になっている。入居者の皆様の温かみのある作品を掲示して季節感を出している。近隣の方や職員が自宅から季節の花を頂いた時は話題性もあり楽しませていただいている。	リビングは広々として吹き抜けの天井が開放感を出しています。全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は自由に行き来できるようになっており気の合った方との会話が楽しめるように配席の配慮も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みの家具の持ち込みや家族の写真が飾られていたり居心地のいい環境作りに努めている。	居室には、馴染みの家具や使い慣れた物をご自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は本人の健康状態や認知症の進行状態に合わせて危険のないようベッドや家具の配置を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				